

都城市議会議長様

提出日 令和7年9月22日

視 察 報 告 書

以下のとおり視察の報告を致します。

1 会派名及び視察者名

公明 佐藤紀子、音堅良一、坂元唱子、綿屋善明

2 視察先・テーマ及び日時

- ① 令和7年8月20日（水） 13：30～16：00
（筑紫野市）オーガニックパパ株式会社・オーガニックユニティ
「オーガニックと農福連携について」
- ② 令和7年8月21日（木） 9：00～11：00
（八女市）
八女市伝統工芸館（見学）
- ③ 令和7年8月21日（木） 15：00～16：00
（春日市）
「眠育について」
「らいん・学校と家庭をつなぐ子どもを育む活動について」
- ④ 令和7年8月22日（金） 10：00～11：30
（糸島市）
「広報物の配布体制を刷新して自治体役員の負担を軽減」

3 視察の内容

- 筑紫野市 「オーガニックパパ」
 - ・有機農産物の生産について
 - ・農福連携について（仕事内容、就労支援体制）
 - ・オーガニック給食及び食育について
- 春日市 「眠育について」
 - ・眠育導入の背景（児童生徒の睡眠不足、生活習慣の乱れ等）、経緯について
 - ・「みんなく」の成果及び実際に見えてきた効果について
 - ・今後の課題について

「らいん・学校と家庭地域をつなぐ子どもを育む活動について」

 - ・活動情報誌を出す目的について
 - ・配布部数、配布先について
 - ・発行を継続するための人的体制等について
- 糸島市
 - ・広報誌の配布を民間委託にした背景と経緯について
 - ・委託により効率性や負担軽減がなされたのか
 - ・自治会との関係性や住民サービスにどのような影響があったのか
 - ・広報誌を通じた「地域のつながり」への影響について

福岡県筑紫野市

オーガニックパパ株式会社・オーガニックユニティ

「オーガニックと農福連携について」

面談者 オーガニックパパユニティ 理事 八尋千佳子様

4 視察の感想

オーガニックパパ（株）は、「安心・安全な食」「子育て世代の支援」「地域福祉の向上」を理念に掲げて設立された団体です。常勤 8 人、非常勤 7 人の有機農業・障がい者福祉サービス業を営まれています。

また、一般社団法人オーガニックパパユニティは常勤 13 人、非常勤 17 人で、食品流通、飲食業、地域若者サポート事業を実施され、有機農業、有機食品の流通、オーガニックレストラン、オーガニック給食事業を展開されています。特に、オーガニックレストランでは、自社野菜をふんだんに使用し、人気を博しています。さらに、100%オーガニック給食を目指す学校、高齢者福祉施設、障がい者福祉施設等に、手作りの健康給食を提供されています。

このように、地域資源である農業を基盤として、福祉や子育て支援を結び付けることで、複数の課題解決に取り組まれています。また、障がい者や子育て世代、地域のボランティア等、多様な人材が関わる仕組みが整えられていました。大変感心したのは、単なる農業活動ではなく、教育・福祉・環境・健康といった幅広い分野に効果が広がっていたことです。

オーガニックパパの取り組みは、「食」「福祉」「地域活性」を結び付ける実践例であり、都城市においても負いに参考になるものでした。

5 視察の成果及び市政への反映等

オーガニックパパ（株）の中心になっているのは、安心・安全な食の提供や農業を通じた人と人とのつながりです。地域の方々が農作業やイベントに参加することで、子どもたちには、食育や自然体験の機会が広がり、障がいのある方や子育て世代には、働く場所や交流の場が生まれています。

今回の視察を通じ、「農業と福祉を結び付ける農福連携」「子育て世代や若者が地域で活躍できる仕組みづくり」「健康・教育地域活性化につなげる実践」といった点が都城市にとっても大いに参考になると実感しました。

福岡県八女市

八女市伝統工芸館「伝統工芸産業の振興について」

佐藤紀子

4 視察の感想

八女市は福岡県の南部、福岡市から南へ約 50 km に位置し、北は久留米市、広川町、にしは筑後市、南は熊本県、東は大分県に接しています。中南部は平野、北東部は森林で占められている中核都市です。豊かな大地に育まれ、古代から栄え、八女丘陵には、岩戸山古墳をはじめ、多くの古墳があります。仏壇・手すき和紙・提灯などの伝統工芸品や茶・電照菊・しいたけ等が特産品です。

古くから、信仰心の熱い土地柄だった八女には、伝統ある寺が多く残っており、文政 4 年（1821 年）に八女福嶋で仏壇づくりが始まりました。漆塗りと緊迫を施した格調高い仏壇は、芸術性と機能美を兼ね備えた伝統技法が光ります。

また、八女手すき和紙は、矢部川の清流を利用し、楮やミツマタなどを原料にしています。画家の棟方志功も愛用した手すき和紙は、福岡県特産工芸品に指定されています。その他、八女和ごま・八女矢・竹細工・桶なども伝統工芸品として有名です。

八女伝統工芸館は、伝統工芸品を一堂に集めた施設で、高さ 10.5m の巨大な石灯籠や高さ 6.5m の大型金仏壇等があり、スケールの大きさに圧倒されました。敷地内には、八女民俗資料館、手すき和紙資料館が併設されており、紙すき体験もできる施設となっていました。伝統工芸に触れる機会と体験ができ、伝統工芸を守り、育てようとする意識が伝わってきました。

5 視察の成果及び市政への反映等

今回、八女市伝統工芸館を視察し、地域に根差した工芸の力を改めて実感しました。伝統的な技術を大切に守りながらも、現代の生活様式やデザインに合わせた新しい商品開発に挑戦している姿勢には、多くの学ぶべき点がありました。また、単なる展示にとどまらず、体験や制作工程の紹介を通じて、訪れる人々に「つくり手の思い」を伝える工夫がなされており、観光振興や教育の場としても大きな役割を果たしていると感じました。

八女市は、「見せ方」に力を入れ、制作過程や職人の思いを伝えています。都城市には、大島紬・大弓・ろくろ工芸等、素晴らしい伝統工芸品があるので、八女市のような伝統工芸館の取り組みを是非、参考にさせていただきたいと思いました。

福岡県春日市

「眠育について」

「らいん・学校と家庭地域をつなぐ子どもを育む活動について」

面談者

春日市議会	議長	中原智昭様
春日市	義解事務局議事担当	若林幹浩様
春日市	教育部 地域教育課	主任 山崎隆博様
春日市	教育部 地域教育課	総括係長 豊田佳史様
春日市	教育部 地域教育課	総括係長 畠中雄一様
春日市	教育部 地域教育課	地域活動指導員 河野千恵様

4 視察の感想

春日市は、九州地方の北部に位置し、福岡都市圏の中央部に位置しています。福岡市の南側に市境を接し、福岡市中心部まで 10 km 圏内という利便性の高い住宅都市です。面積は 14.15 km²で、福岡県内で面積の一番小さな市で、人口密度は九州・沖縄の市町村において一番高い自治体です。

「眠育」とは、睡眠の仕組みや眠りの持つ力など、睡眠に関する正しい知識と習慣を身に着けるための教育のことです。春日市においては、児童生徒の睡眠への意識向上と生活習慣の改善を図り、心身の健康を増進させることを目的として取り組まれています。

「みんなく」開始の背景として、不登校の要因の一つである「基本的生活習慣の乱れ」に着目したところ、中学生の過半数、小学生の約 3 割が睡眠不足を感じているという実態がありました。そこで、筑紫女学園大学に、「授業、講演の実施」「睡眠実態調査の実施・報告」「各小学校の取り組み支援」「教材、研修資料等の作成支援」等を委託し、事業実施をスタートさせました。

「らいん」は、学校・家庭・地域をつなぎ、子どもを育む活動情報誌で、平成 14 年度から事業が開始されています。青少年育成、生涯学習を推進するには、学校・地域行政の連携と各地区の横の情報交換が必要であることから、地域活動指導員を配置し、「らいん」（年 2 回）が創刊されました。

5 視察の成果及び、市政への反映等

「みんなく」実施の成果として、早寝する小中学生の増加、児童生徒の自尊感情の向上をあげられています。よく眠ることが学びと成長の基盤であることが大変よくわかりました。都城市においても「学力・健康づくり」と合わせて睡眠教育を是非、取り入れたいと感じました。

福岡市糸島市

「広報物の配布体制を刷新して自治体役員の負担を軽減」

佐藤紀子

面談者

糸島市議会 議会事務局長 土肥英雄様
糸島市 経営戦略部 徳永真一様

4 視察の感想

糸島市は、平成 22 年 1 月 1 日に、前原市、二丈町、志摩町が合併して誕生しました。福岡県西部の糸島半島に位置し、北側には玄界灘に面した美しい海岸線が広がり、南側には背振山系の山々が連なっています。

東は福岡市、西は佐賀県唐津市、南は佐賀市と接し、博多駅や福岡空港にも乗り換えなしでアクセスでき、交通利便性が高い地域です。

糸島市は、日本郵政グループの JPMD の全戸配布サービスを活用し、広報誌の配布における課題解決に取り組まれています。この取り組みは、地域の自治会役員の高齢化による負担軽減が目的で、JPMD のエリア指定可能な全戸配布サービスを利用して、「広報いとしま」を全戸に効率的に届けることを目指しています。

取り組みの経緯としては、令和 2 年 10 月、行政区長会校区代表者会議にて広報誌の発行回数、重量、郵送、委託等、配布方法の検討が要望されました。令和 4 年度には配布回数を月 2 回から 1 回に変更され、ポスティング導入意向調査実施されました。令和 5 年度には各校区のポスティング導入の意向を尊重し、運用を分けて令和 6 年度から導入が開始されました。

担当者が詳しい資料を準備下さり、とても分かりやすく丁寧に説明していただきました。自治体の加入率は令和 5 年度において、87.03%とのことで、加入率の高さに驚きました。

5 視察の成果及び市政への反映等

糸島市は、「広報いとしま」を市民とともにまちづくりをするための大切なツールと捉えています。糸島市広報発行規定第 5 条「市広報は、市内の全世帯及び市長が必要と認めたものに対し配布する」とし、全世帯に対し確実に情報を届ける義務があるとしています。

都城市同様、自治会役員の高齢化や担い手（地域役員等）不足などの課題を抱えており、思い切ったこの取り組みに着手されました。市政への理解を得るためにも広く住民に広報誌を届ける体制が重要であると再確認しました。都城市でもこのような取り組みの必要性を感じました。

福岡県筑紫野市

(一社)オーガニックパパユニティ 「オーガニックと農福連携について」

音堅良一

面談者 (一社)オーガニックパパユニティ 理事 八尋千佳子 様

4, 視察の感想

オーガニックパパビジョンには、「農福連携で食育を担う」をコンセプトに、人の身体を健康にする有機農産物の生産や無添加食品の製造、料飲サービスをソーシャルファームを通じて提供しております。ヒトが生きていくための最も大切な食べ物を地面から生み育てる仕事ですから社会的価値は言うまでもありません。オーガニックを日本中に広める仕事は、多くの方々に喜びを与え、心から充実感に満ち溢れながらちゃんと稼げる、いま最も求められるソーシャルビジネスなのです。そんな掛け替えのない仕事で、みなさんの得意を伸ばしながら、しっかりとした農業技術を獲得し、生涯続けられるライフワークになることを願いサポートしていきます。と、あります。人間にとって一番大事な食べ物のことを真剣に考えられ、広めようとされている姿に、人間としての原点と責任感を強く感じました。また事業所の理念には、私たちな、生態系に負担をかけずに、すべての生物と調和のとれた「農業」を主体として活動しています。仕事を通じて色々な経験を積むことで、「社会の中で役に立っている」と感じるやりがいと「仕事をしておかった」という生きがいを感じながら、自信の成長につながる大切な人生の時間を過ごしてほしいと、強く願っています。そしてなにより、日々の暮らしを安定させ将来も安心できる経済的自立のために、一人ひとりの個性を大切に支援を行っています。と、あります様に、事業所として農業を通じ、障がい者一人ひとりの生きがい、やりがい、経済的自立を大切にして支援されていることに感動しました。視察した、有機 JAS 認証レストラン、ゆめタウン筑紫野店にあるオーガニックストア、農産品の加工場、有機水田や畑には、健常者と障がい者が一緒になって働いている光景に感無量でした。

5, 視察の成果及び市政への反映等

オーガニックパパは、株式会社とユニティを経営され、障がい者福祉サービス、有機農業、料飲事業、給食事業、有機加工品製造業と幅広く運営されていますので、農福連携が可能になったと感じました。有機農業を通じて、何らかの障がいがあっても、精神的な疾患があっても、引きこもりの人でも、自分らしさを見つけ、自然に生きられることは、凄いことだと思いますので、本市でも参考になる取り組みになると思います。2024 年 4 月から100%オーガニック給食を目指して、私立幼稚園の給食の提供を行っていますが、だいたい給食費は月 5 千円ですが、オーガニック給食は 1 万5千円と約3倍になるようです。また、宅配給食事業では、お客様の現状や環境に合わせて、障がい者福祉施設、高齢者施設への給食宅配や、学生寮の給食事業、名物の行楽弁当などの製造を行っているので、雇用に大きく貢献しています。本市としましても、人間にとって一番大事な食べ物であるオーガニック化の取り組みは子ども達の未来を考えると重要と考えます。また市民の健康を守る上でも、100%オーガニックの健康給食、健康弁当の事業は進めて行くべきと考えます。

福岡県筑八女市

八女市伝統工芸館 「伝統工芸産業の振興について」

音堅良一

4, 視察の感想

八女市は、福岡県南部にある平野部と山間部を併せ持つ、八女茶、あまおうイチゴ、電照菊などの特産農作物と、仏壇、提灯、石灯ろう、手すき和紙などの伝統工芸品が有名です。平成 6 年度の伝統工芸 4 団体(八女福島仏壇、八女提灯、八女手漉和紙、八女石灯ろう)の生産額は、11億 8 千400万円で、令和元年 20 億 1 千万円、平成 26 年 37 億 3 千万円と、10 年前の3分の1となっています。伝統工芸産業の振興のため、後継者育成と産地組合への支援を行っており、後継者育成については、「伝統工芸等継承者育成奨励金事業」を実施し、産地組合支援としては、後継者育成、技術保存、商品開発、需要開拓のための啓発活動等に対し補助金の交付や出展費用の負担により、産地の維持、発展と伝統工芸の広報活動を支援していますので、それぞれの分野で、多岐にわたる補助金により、伝統工芸が守られていることがわかります。伝統的建造物については、伝統的建造物群保存地区内の建造物等の修理、修景事業にたいしての補助金制度で守られており、空き家にならないための取り組みとして、町並み保存会や NPO と連携して、空き家の改修や店舗のマッチング等を実施しています。また、伝統的建築物を店舗や宿泊施設、住居として活用する場合は家賃補助制度として「八女市まちなみ家賃補助金」があり、手厚い支援となっています。八女市伝統工芸館については、令和 4 年度、5 年度、6 年度の総来場者数は、平均 4 万 8 千人となっており、手すき和紙体験者数は、令和 4 年度と令和 6 年度を比べますと、2,012 人増の 3,766 人に急増しており、手すき和紙への現在の関心が伺えます。

5, 視察の成果及び市政への反映等

八女市伝統工芸館の現地視察では、八女市の様々な伝統工芸品を確認し工芸品の種類の多さに驚きました。令和 6 年度の総来館者数は約 5 万人であり、3 年間ほぼ横ばいであり、手すき和紙体験者数は、年々増加し、約 4 千人となっており、関心の深さを感じています。伝統的建造物群保存地区内の視察では、建造物等の修理やリフォーム等で維持され、町並みがきれいに整備され、出展費用の負担により、町並みを維持しながら新たな店舗が開店していました。また伝統的建造物群保存地区の認知度を上げるために、インフルエンサーを活用したプロモーション事業(SNS での動画発信)を行っており、積極的な広報が大事であることが分かりました。この様なことから、まずは伝統工芸品を守るために、「伝統的工芸品産業育成事業費補助金」、「伝統的工芸品教育事業費補助金」、「工業者販路開拓・販売促進補助金」。伝統的建造物を守るために、「まちなみ家賃補助金」などの補助金活用が重要であることが理解できました。本市においても、伝統工芸をアピールすることや後継者育成、技術保存、商品開発、需要開拓するための伝統工芸館の設置や、伝統工芸品を守るための課題となる部分への様々な事業費補助金の活用が必要だと思います。

福岡県春日市

「眠育」と「らいん」学校と地域家庭をつなぐ子どもを育む活動について

音堅良一

面談者

春日市議会 議長 中原智昭 様

春日市 議会事務局 議事担当 若林幹浩 様

春日市 教育部 地域教育課 主任 山崎隆博 様

春日市 教育部 地域教育課 総括係長 豊田佳史 様

春日市 教育部 地域教育課 総括係長 畠中雄一 様

春日市 教育部 地域教育課 地域活動指導員 河野千恵 様

4, 視察の感想

小中学校における児童生徒への睡眠教育(みんいく)は、令和元年度モデル事業として、2 中学校、4 小学校で導入され、令和 4 年度は市内全18小中学校で実地されている。眠育とは、「睡眠の仕組みや眠りの持つ力など、睡眠に関する正しい知識と習慣を身につけるための教育のこと」であり、「児童生徒の睡眠への意識の向上と生活習慣の改善を図り、心身の健康を増進させる」に繋げる取り組みであり、筑紫女学園大学に委託して①学活の時間に児童生徒へ知識教育する授業。②自分の寝た時間を睡眠日誌として作成。③睡眠と健康に関するアンケート。④保護者へのリーフレットの作成。⑤睡眠に関する動画を作成して保護者への啓発を図る。の以上 5 項目を実践しているので、専門家の意見が多々に反映されている様に思います。また、「らいん」活動情報誌発行により、学校・家庭・地域をつないで子どもを育んでいる事業を展開されており、地域活動指導員(3 人雇用)が中心的存在となっている。3 人分の人件費は年間 14,487,629 円で、内の県費補助金は 3,565,800 円となり、実質市負担金は 10,921,829 円となっています。そして、放課後子供教室事業であるアンビシャス広場では、地域の皆さんの参画のもと 13 小学校毎に、放課後や休日に放課後子供教室を開設し、公民館や学校を会場として様々な遊びや体験・交流活動を提供しており、子ども達の居場所になっている。

5, 視察の成果及び市政への反映等

「みんいく」開始の背景には、不登校の要因の一つである「基本的生活習慣病の乱れ」に着目し導入されており、春日市ではアンケートの結果から、中学生の過半数、小学生の約 3 割が睡眠不足を感じており、最近の傾向として低年齢化の不登校が増加している様です。本市に於いても不登校生徒は増え続けていますので、原因の一つとされる「基本的生活習慣病の乱れ」に注目した取り組みは大変重要であると思います。放課後子供教室事業であるアンビシャス広場については、地域の頼れる大人と出会いながら会話や遊びを通じて交流を深めることは、地域の大人に見守ってもらっているという安心感の醸成につながるということですので、本市でもこうした事業は広げるべきだと思います。学校・家庭・地域をつないでゆく「らいん」活動情報誌発行については、地域との繋がりが少なくなっている現代では、繋がりを求めていく取り組みが重要であります。しかしボランティアの活動では限界がありますので、こうした、地域活動指導員に報酬を支払いして取り組みを継続していくことは現実的であり、成果が表れやすいと考えますので、本市でも参考にしたいと思います。

福岡県糸島市

「広報物の配布体制を刷新して自治体役員の負担を軽減」

音堅良一

面談者

糸島市議会 議会事務局長 土肥英雄 様

糸島市 経営戦略部 情報政策課 広報係 総括係長 課長補佐 徳永真一 様

4. 視察の感想

「広報いとしま」は、月 1 回、年 12 回発行の 44,000 部となっており、リニューアルや改善を重ねながら発展中となっています。自治体広報紙は全国での格差が激しい媒体であり、発行されるだけの広報では読まれないので協働を生む広報紙が重要だということです。協働を生む広報紙とは、広報 5 段階活用できる広報紙であり、①読んでもらう。②理解してもらう。③納得してもらう。④行動してもらう。⑤協働する。ということになります。糸島市の現状と課題は 3 つあります。①市民とともにまちづくりをするための大切なツールである「広報紙」は、届かないと読んでもらえない。②地域役員は配布の担い手であるが高齢化により不足している。③糸島市広報発行規定第 5 条には、「市広報は、市内の全世帯及び市長が必要と認めたものに対し配布する。」となっているので、全世帯に対して確実に情報を届ける義務があります。以上のことから委託によるポスティングを導入することになりました。入札ではないプロポーザル方式で業者を決定した理由は、見積金額だけでなく実施体制や正確性、アフターフォローや実績等を考慮するためです。全校区でポスティングによる配布を行った場合、委託費として約 5,055 万円かかり、懸念点として、コミュニケーションの希薄化、自治体未加入世帯の増への懸念や行政区の運営資金としていた行政情報推進費が絶たれる等がありました。「委託によるポスティング導入」で良かった点は、「配布・組仕分・配送等への身体的、精神的、時間的負担が減少したこと。」、「配布物の一体化の包装により雨を気にしないでよかったこと。」、「行政区の他の活動への注力できるようになった。」等がありました。また担当課の所見として、「高齢化や担い手不足は早めの対応が手遅れにならない。」ということ等を含めて、様々に大変貴重なご意見を頂きました。

5. 視察の成果及び市政への反映等

「広報いとしま」については、糸島市広報発行規定第 5 条には、「市広報は、市内の全世帯及び市長が必要と認めたものに対し配布する。」となっていることが、全世帯配布の考え方のスタートとなっています。「委託によるポスティング導入」を入札ではなくプロポーザル方式で業者を決定した理由は、見積金額だけでなく実施体制や正確性、アフターフォローや実績等を考慮するためだということで、様々な配布物を地域ごとに変えて配布することは大変難しいことです。また、今までの方法が変われば運用も変わるわけですので、公民館に入るはずの行政情報推進費が廃止となります。良いことばかりではないので、そういったことも検討や話し合いが大事になってくると思います。重ねて、コミュニケーションの希薄化、自治体未加入世帯が増えていく懸念も同様です。一方、配布・組仕分・配送等への身体的、精神的、時間的負担が減少したことは自治体役員の負担軽減になったことは素晴らしいことです。いずれにしても本市に於いては、高齢化や担い手不足となっている地域の現状をよく調査し、話し合いながら、手遅れにならない様に対策を進めるべきだと思います。

福岡県筑紫野市

(一社) オーガニックパパユニティ「オーガニックと農福連携について」

坂元唱子

面談者 (一社) オーガニックパパユニティ 理事 八尋千佳子 様

4.視察の感想

筑紫野市で有機農業を中心に、農福連携や有機 JAS 認証レストラン・オーガニックショップ、そして子ども給食弁当の製造配達を行っている「オーガニックパパユニティ」を視察しました。

理事より農福連携や子ども給食弁当への取組、オーガニック農園を展開するまでのこれまでの大変だった道のり等様々詳しいお話を伺い、農福連携では、障がいのある方々の就労支援として、農作業の一部を担っていただいている農園や仕分け作業を行っている現場、レストランでの調理や配膳を担う様子を視察。生産から販売までを通じて社会参画の機会を提供されていました。

子どもの給食弁当では、100%オーガニック給食を目指し、私立幼稚園への給食弁当を提供しています。費用は学校給食費の約3倍の1万5千円と高額ですが、安全安心な食材を子どもたちに届けたいとの思いと共に、地産地消・食育の推進にもつなげています。

有機農業を軸に、農業・福祉・教育を結びつける多面的な取組は大変印象的でありました。特に、障がいのある方々の社会参加を支援しつつ、子どもたちの給食に安心安全な野菜を提供している点は、地域に根差した持続可能なモデルであると興味深く感じました。

5.視察の成果及び市政への反映等

農福連携の取組は、オーガニックにこだわらずとも農業分野における就労機会を創出する仕組みは、本市でも大いに活用し参考に出来ると思います。

農業を通じて、障がいがあっても、引きこもっていても、精神的な疾患があっても大自然の中で、自分らしさを見つけ、安心して生活ができるように、農業と福祉の連携はとても重要であり、これから注力する必要があると思います。

学校給食への有機野菜や食材は、量や費用での課題はあると感じる一方で、食育や子どもたちの安心安全な食・健康を守るためには、地元の食材や有機食材の活用は検討する必要があると思います。市民の健康、安心安全な食環境の取組としてオーガニック（有機農業）への取組支援は本市でも、地域資源を活かす取組として、とても重要であると思います。

福岡県八女市

八女市伝統工芸館「伝統工芸産業の振興について」

坂元唱子

4.視察の感想

八女市における伝統工芸産業の保存・継承・振興の取組みを学び、視察を行いました。

八女市は、八女茶や伝承菊などの特産物と提灯・石灯ろう・手すき和紙など多彩な伝統工芸を有しており、伝統工芸館はその発信拠点となっています。実際に見学した施設は、伝統工芸品の展示販売にとどまらず、製作体験や歴史を学ぶことが出来ます。また、伝統的建造物群保存地区内の視察では、建造物等の修理やリフォーム、まちなみ保存活動も担っており、市民や観光客に開かれた存在でありました。特に印象的だったのは、「技を見せる」「触れて体験する」空間づくりで、工芸の価値を「鑑賞」から「参加」へと広げている点です。

伝統工芸を「古いもの」として保存するだけでなく、「現代に生きる文化」として魅力的に発信している姿勢が感じられました。

工芸館の年間来館数は、約4万8千人、手すき和紙体験も年間3766人と急増しているそうです。工芸そのものが観光資源となり地域経済へ波及していることが分かります。

八女市は、伝統工芸産業振興のため、後継者育成と産地組合への支援を行っています。

また、インフルエンサーの活用やSNSでの動画配信など、従来の「展示」だけでなく時代に即した広報手法を取り入れ情報の発信を積極的に行っていることはとても興味深く感じました。

また、伝統工芸館だけでなく、まちなみ保存地区全体と連動しており、地域全体の文化価値を高めている点が強く印象に残りました。

5.視察の成果及び市政への反映等

本市でも、多くの伝統工芸を活かし、伝統や地域文化を守りつつ魅力発信をする仕組みが必要だと思います。「体験」「学び」「参加型」を導入することで市民や子どもたちが文化を自分事として受け止め、後継者育成にもつながると思います。

また、伝統工芸や文化を「観光資源」として位置づけ、地場産業やまちづくりと一体に展開しSNSやインフルエンサーを活用し、八女市を参考に研究し、市外への発信にも力を入れ観光誘客へつなげていくことが出来ると思います。

もっと本市も、伝統工芸の魅力発信や後継者育成に力を入れ、後世につないでいく取組を真剣に行い、事業費補助金の活用も視野に入れ、取組んでいく事が重要だと思います。

福岡県春日市

眠育と学校・家庭・地域をつなぐ子どもを育む活動情報紙「らいん」について

坂元唱子

面談者

春日市議会 議長 中原智昭 様

春日市 議会事務局 議事担当 若林幹浩 様

春日市 教育部 地域教育課 主任 山崎隆博 様

春日市 教育部 地域教育課 総括係長 豊田佳史 様

春日市 教育部 地域教育課 総括係長 畠中雄一 様

春日市 教育部 地域教育課 地域活動指導員 河野千恵 様

4.視察の感想

春日市では、不登校の要因の1つとして「基本的生活習慣の乱れ」がある事に着目し、特に「睡眠の乱れ」が心身の健康や学習意欲、集中力に影響を及ぼすため、子どもたちの生活リズムを整える取組として「眠育」を、R元年度に中学校の2校、小学校4校でモデル実施し、R4年度から市内全小中学校18校に拡大しています。専門知見を持つ筑紫女学園大学に委託し、授業や睡眠日誌の作成、睡眠と健康に関するアンケート、リーフレットの作成等で、子どもたち自身が睡眠の大切さを学習し、保護者への理解を深める為、動画作成や三者面談を行うなど、様々な取組みで、啓発活動を行っていました。その結果として、早寝する小中学生の増加や自尊感情の向上につながっているそうです。「不登校」という課題を、学習支援や相談支援ではなく生活習慣（特に睡眠）という根本に着目した点が大変に興味深く、また大学との連携で、睡眠の重要性を専門的知見から子どものみならず保護者に向けても啓発活動を行っていることが成果につながっていると感じました。

さらに春日市では、子どもを地域ぐるみで育てる取組を広く発信するため、情報紙「らいん」を作成・発行しています。

目的は、保護者に地域で子どもを育てる活動を知ってもらい、次世代の担い手を育てる契機とすることです。

地域の皆さんの参画のもと13小学校毎に、放課後や休日に放課後子供教室（アンビシャス広場）を開設し、公民館や学校を会場として様々な遊びや体験・交流活動を行い、安全で安心できる子どもの居場所づくりを行っており、さらに学校・家庭・地域の連携を強化するため、地域活動指導員を3人雇用し、放課後子供教室やコミュニティ・スクール等の地域で子供を育てる取組への訪問をR6年度は、67件行っています。

活動の内容を情報紙「らいん」で発信することで、学校・家庭・地域をつなぎ、更には担い手育成にまでつなげている点がとても印象的で、持続可能な地域子育ての仕組み、そして、世代間を超えた交流は、とても興味深く、子どもたちの安心安全な居場所実現へのカギになると感じました。

5.視察の成果及び市政への反映

不登校問題は本市においても、とても重要な課題であり、様々な視点で取り組んでいかなくてはならないと感じています。春日市の「眠育」は、不登校の課題を「生活習慣改善」に着目した点、さらに大学との連携による専門的知見で、家族まろごと理解を深めたことは、本市でも参考にできる点であると思います。また睡眠は、不登校だけでなく、広く多くの市民にとっても重要であり、市民の健康維持のためにも市全体に波及させる事のできる取組だと思っています。

そして、学校・家庭・地域をつなぐ取組みの興味深い点は、「地域活動指導員」を雇用し、その指導員が橋渡し役となって地域ぐるみで子どもを育てようとしている点と、情報紙の発行を通して「見える化」により、地域や保護者の理解・参画の促進を行っている点です。

本市もこの取組は、公民館加入率の問題解決にも大きく寄与すると感じ、地域の協力で進める、みんなで子どもを「見守り・育てる」仕組みづくりの重要性は、多くの学びがあり、参考にしたいと思いました。

春日市の「眠育」「学校・家庭・地域をつなぐ活動」は、不登校対策・地域との連携を進めるにあたり、大いに参考となる先進事例であると考えます。

福岡県糸島市

広報物の配布体制を刷新して自治体役員の負担を軽減

坂元唱子

面談者

糸島市議会 議会事務局長 土肥英雄 様

糸島市 経営戦略部 情報政策課 広報係 総括係長 課長補佐 徳永真一 様

4.視察の感想

糸島における広報紙「広報いとしま」の配布体制刷新の取組について学び、市民への情報発信のあり方や自治体役員の負担軽減の仕組みを把握することを目的として視察を行いました。

「市政と市民を輝かせる」ことを理念とし、市民とともにまちづくりを進めるための大切なツールとして位置づけており、「協働を生む広報紙」を目指し、広報５段活用『①読んでもらう②理解してもらう③納得してもらう④行動してもらう⑤協働する』を掲げています。糸島市の課題として、高齢化や担い手不足により自治公民館役員による広報紙の仕分けや配布の負担が大きくなっており、広報紙は、「届かなければ読んでもらえない」との思いと糸島市広報発行規程第５条において「市内の全世帯に配布する義務」が明記されていることから、全戸配布を確実に実施する必要があった。役員の負担軽減のため、郵送や委託（ポスティング）などの新しい配布方法を検討。Ｒ４年度、利点や課題について行政と自治会で意見交換を行い、「意見交換の機会が失われるのでは」との懸念も示された。校区によって、意向が異なり、ポスティングを希望するところと希望しないところがあり、Ｒ６年度から意向を尊重し、ポスティングの運用とこれまでの自治公民館毎の配布を分けて導入開始しています。

ポスティングを導入することで、「行政情報推進費」がなくなり、自治会の財政は厳しくなる事や自治会に加入しなくてもよいと考える人が増えるのではと危惧する声や自治会未加入世帯へのアプローチのきっかけが減ることが懸念されています。

糸島市の自治会加入率は年々減ってはいるものの約８７％ととても高い加入率です。

担当者の広報紙を確実に届けたい、「届かなければ読んでもらえない」との思い、印刷費が増になったことや職員の負担が増えたこともあるが、費用や負担が倍かかっても問題解決するんだとの強い思い、そして情報弱者を生まないとの思いがひしひしと伝わってきました。

そして、自治会との話し合いを設け、しっかり意向を聞き入れる柔軟な運用を行っている事が、成功している要因と感じました。

5.視察の成果及び市政の反映

本市は、広報紙の配布を自治公民館が担っています。

本市においても糸島市同様、高齢化や担い手不足は大きな課題であり、役員の負担が公民館加入にも大きく影響しているものと考えます。また、本市のように公民館加入率が約 55%にとどまっている場合、現行の配布方法では、半数近くの市民に市政情報が届いていません。全戸配布を基本とし、ICT との組み合わせも含め、改善する必要があると思います。

こうしたことから、糸島市でのポスティング配布はとても参考になる取組であり、研究する必要があります。地域の実情に応じた運用を認める柔軟な仕組みづくりと公民館に依存せず、確実に情報を届ける仕組みづくりが必要と思います。

福岡県筑紫野市

(一社)オーガニックパパユニティ「オーガニックと農福連携について」

綿屋善明

面談者 (一社) オーガニックパパユニティ 理事 八尋千佳子 様

4、視察の感想

オーガニックパパユニティ様は、就労継続支援 A 型・就労継続支援 B 型、地域若者サポートステーション事業（以下「サポステ」）、有機農産品の生産・販売・加工、レストラン事業、給食事業を行っています。私たちが訪れた、レストランや農園には、障がいや特性のある方が勤務されており、それぞれのペースで就労させている様子が印象的でした。理事の八尋様によりますと、かつて「ひきこもり」だった方が、同法人で働くようになり、今では、職場の責任職を任されるまでになった、とのことでした。就労継続支援 A 型、同 B 型から段階的に仕事をはじめることが出来る仕組みがあること、そして、そこからステップアップして大きく社会へはばたこうとする時、福祉に強い同法人が運営する「サポステ」の存在は、当事者にとって大変心強いものになると感じました。

5、視察の成果及び市政への反映等

本市において、「有機農法」を前面に打ち出した施策を性急に進めることは得策ではありません。慣行農法が食料供給にこれまで果たしてきた貢献度は絶大なものがあるからです。一方で、国は「みどりの食料システム戦略」を打ち出し、2050年を目指し環境負荷の少ない農業の推進を始めています。早晩、本市においても「有機農法」とまではいかなくとも、「無農薬」が全体の何割かを占める時がやってくることを想定しておく必要があります。その際、課題のひとつになるのは、労働力不足です。令和3年経済センサス活動調査によりますと、令和3年6月1日現在、本市の第1次産業における労働人口は2,810人。本市の生産年齢人口が85,484人（本市 HP 2025年9月8日更新）ですので、農業・林業等の生産に従事するのはわずか3%。農業に特定すれば、さらに低くなります。

今回、視察したオーガニックパパ様には、統合失調症、ダウン症、自閉症等の当事者の方が労働に従事されていました。また、「ひきこもり」から社会に参加するきっかけ作りに農福連携は大きな役割を果たしております。これまで、行政は「親元就農」に力点を置き、就農人口の増に力を尽くしてきました。しかし、大きな成果を得られたとは、必ずしも言い切れません。今後、労働力不足の解消の観点から、心身に不安を抱える方の社会復帰に農業を使う、という施策の方向性が有効ではと考えます。「有機」という付加価値の高い産品を販売し、労働者へのペイを確保する。また、そして、その方々が社会復帰する流れをつくることができれば、本市は内外に大きなインパクトを与えることが出来る。そして、これは国の方針にも適っていると考えます。

福岡県八女市

八女市伝統工芸館「伝統工芸産業の振興について」

綿屋善明

4、視察の感想

今回視察した八女市役所周辺の地域は、以前から歴史的建造物群の街並みが美しいと耳にしていた。今回訪問すると、その建造物を生かし新たなコミュニティや店舗ができ、若年世代と熟年世代だけでなく、外国人観光客までが次々訪れる街であることが分かりました。その秘密は何だろう、と思いながら、八女市伝統工芸館へ向かいました。

伝統工芸館には、仏壇を始めとした木工芸、久留米緋、和紙、提灯、からくり人形などの工芸品の展示と体験、それに伝統芸能や暮らしの道具を展示したスペースなど、この地域の古今の営みが一か所に凝縮されたような場所でした。入り口を抜けると正面に巨大な仏壇が迫ってくる。そこを抜け、二階へ上がると、「八女伝統工芸とニューヨークデザインコラボ事業」と題した展示が目飛び込んできました。「伝統的な匠の技術とニューヨークモダンデザインの融合」と書かれたパネルを拝見し、思わずため息が出ました。今、伝統工芸は、工芸品自体の歴史的な価値に注目する時を超え、そこに凝縮された技術力に注目が集まっています。世界の若者が、「八女の技術力」を通してつながり、よりよい社会や住環境を共に作り出そうと連帯しようと交流をしています。私たちは、この力を借りて世界とつながり、世界の人と共に新たな価値を作り上げ、世界から注目される地域を創ることができる。その可能性を感じた視察となりました。

5、視察の成果及び市政への反映等

伝統工芸産業の振興に向けた新たな取り組みについて八女市様に質問したところ、「令和7年度から産業団体や八女伝統工芸館と連携し、八女伝統工芸館の在り方や方針について検討している。この検討を通じて、八女伝統工芸館を軸に、地域の特性を生かした振興策を模索し、伝統産業の価値を守ることにより持続的な維持を支援したいと考えている。」と回答されました。同館が、伝統工芸の広報だけに留まることなく、地域文化や地域交流、伝統産業に関わる方たちのサロンの存在になっているという印象を受けました。本市における伝統工芸館の役割は、もしかするとかつての地場産業振興センターにあったのかもしれませんが、しかしながら、伝統に特化した広報と伝統工芸家が交流する一体型の拠点施設といったものは、現在の本市にはありません。伝統工芸には、その地域が長年培ってきた知恵や先人の生きざまが刻み込まれています。それを知る工芸家同士、さらには、それを知りたい観光客と工芸家と交流できる場が本市にあれば、より多くの交流人口の獲得に寄与するものと考えます。本市には、日本はおろか世界の三大織物である大島紬、江戸の香を今に残す薩摩大弓、木刀やロクロ工芸等々、希少性のある工芸品が現存しております。この資源を発展させ茶や書などと組み合わせることによって、大きな価値を生みます。そうした地域振興と観光誘客における拠点となる施設の役割は大きいものと考えます。

令和4年度からの3か年で、平均 48,000 人が訪う八女市伝統工芸館について、「館内での展示・販売によって地元産品の販売促進に寄与し、伝統工芸の技術を保存して次世代に伝える場として、文化の継承にも貢献している。また、知ってもらうことにより、次世代(後継者)への技術継承の基盤を築く役割も果たしている。さらに、八女伝統工芸館を訪れる観光客が増えることで、地元への経済効果が期待される。」とする当局は回答されました。本市も一考に値すると考えます。

福岡県春日市

眠育「ライン・学校と地域家庭をつなぐ子どもを育む活動について」

綿屋善明

面談者 春日市議会 議長 中原智昭 様
春日市議会 事務局 議事担当 若林幹浩 様
春日市議会 教育部 地域教育課 総括係長 豊田佳史 様
春日市議会 教育部 地域教育課 総括係長 畠中雄一 様
春日市議会 教育部 地域教育課 地域活動指導員 河野千恵 様

4、視察の感想

「小中学校における児童生徒への睡眠教育」を筑紫女学園大学とともに実施しているとのことでした。春日市様は、令和6年の委託料として年間 247,500 円を支出し、①児童生徒向けの授業や保護者向け講演会、②睡眠実態調査の実施・報告、③各小中学校の取組組支援、④教材・研修資料等の作成支援、⑤その他必要な情報提供などを大学側が提供します。

早寝や睡眠教育を実施した成果として、春日市様は「早寝する小中学生の増加」とともに「小中学生の自尊感情の向上」を上げておられました。小中学生は、友人との関係や OD(起立性調節障がい)等から不登校へ、ひきこもりへと進展します。その根っこ部分の解決にむけたアプローチとして、大変興味深い事業であると感じました。また、これを補助する「らいん」(学校・家庭・地域をつなぎ、子どもを育む活動情報紙)の取組も、子どもの脳の健全な発達を促すものとして、大変参考になりました。

5、視察の成果及び市政への反映等

春日市提供の資料によりますと、小学生(午後10時までに睡眠)と中学生(午後11時までに睡眠)の早寝は、令和元年度以降、上下を繰り返しながらも、少しずつ増加傾向にあります。とりわけ、中学生の早寝については、令和4年度 40.5%、令和5年度43.0%、令和6年度 48.3%と軒並み増加しています。

思春期における感情の起伏が激しい時期において、どうこれをコントロールするかは大きな課題のひとつであります。同市の調べで、早寝が増加傾向にある中学生の「ストレス反応」は、令和4年以降、緩やかな下降傾向にあります。早寝が増加するにしたがってストレス感が減少する効果があったとの報告でありました。その中で最も顕著に減少していた項目は「抑うつ・不安」の項目でした。このことを通して、「自尊心の向上」を目標に掲げている睡眠教育には、一定の効果があるものと考えられます。これから先、小中学生が必ず直面するストレス社会を生き抜くため、上手に睡眠をとりながらストレスの少ない生活を送るにはどうすればよいか、児童生徒へ教授することは、「市民の笑顔が広がる」先進都市を目指す本市にとっても示唆に富む取組であると思います。

福岡県 糸島市

「広報物の配布体制を刷新して自治体役員の負担を軽減について」

綿屋善明

面談者

糸島市議会 議会事務局長 土肥英雄 様

糸島市 経営戦略部 情報政策課 広報係 総括係長 課長補佐 徳永真一様

4、視察の感想

今年に入り、本市では自治会を経由する広報紙が、月2回から月1回に縮減されました。理由は、広報紙の配送に関わる方への負担を軽減するためとのこと。携わって下さる方の多くが、ご高齢ということもあるかもしれませんが、増加傾向にある公民館離れを念頭に置く時、これまでの体制がいつまで持続できるだろう、と気をもみます。こうした問題意識から視察に臨みました。

糸島市様は、「糸島市広報発行規定」を定めており、その第5条に、全世帯に対し確実に情報を届ける義務が行政にはある、と規定しております。しかしながら、地域コミュニティを支える方の高齢化に伴い配り手が不足し、「広報紙」の配布が困難になる事態が懸念され、令和4年度から株式会社JPメディアダイレクトへのポスティング委託を開始した、とのことでした。

「協働を生む広報紙」を作りたい。「届かないと読んでもらえない」。

配布方法についてのご説明の前に多くの時間をさき、糸島市様が発行する広報紙についてお話を頂きました。振り返りますと、行政側に広報紙発行の明確な意図があれば、コストが大きくとも配布方法を刷新することは意義あることだ、とお伝えくださったのかもしれないと思います。本市の広報紙、また、議会の広報紙には「市民協働」の視点があるだろうか。広報広聴委員会に関わる一人として、大きな示唆を得る時間となりました。

5、視察の成果及び市政への反映等

糸島市様は、広報紙の配布方法を2通り設けています。それは、①業者委託によるポスティング（主に住宅密集地）、②自治会による配布（主に中山間地域）です。それぞれの手法を全校区で実施した場合の試算額（年額）は、①が 5,055 万円、②が 2,525 万円となり、①にすると従来の 2 倍以上の経済的コストになります。加えて、2通りの配布方法をしているため、市職員の事務処理等の時間的コストが大きくなります。また、現場では、自治公民館に広報紙の委託費がカットされ、コミュニティ運営に少なからずの負担がかかります。広報紙の配布方法については、行政側、地域コミュニティにおいて十分な議論が必要です。

一方で、ポスティングを導入した自治公民館では、約 97%の方が負担軽減に「つながっている」、とアンケートに答えております。現場の負担軽減に加え、公民館に未加入の方へも市の広報紙が届きます。これは、大きな災害時にも、行政・市民双方にとって大きな力を発揮するものと考えます。

糸島市様から、広報紙のポスティング委託の導入にあたってアドバイスを頂きました。①お金面では、入札でなくプロポーザルが良いこと。ポスティング導入と行政情報推進費の廃止はセットであること。②地域との調整については、行政推進費の廃止とコミュニティの継続を別軸で同時に検討すべきということでした。本市においても、まず、広報紙について市民がどのように考え、また希望しているのか聴き取りをすることから始めてはどうだろうか、と考えます。



運営する販売店舗を視察



八尋理事より運営する食堂で説明を受ける



オーガニックパパ様の農場を視察



八女市伝統芸館を視察



春日市役所にて説明を受ける



春日市議会議場にて



糸島市役所にて説明を受ける



糸島市議会議場にて